

授業概要

本授業は東アジアの中心に位置する中国とその周辺地域である日本とのそれぞれの文学の相互影響について、主に 20 世紀以降の両国の近現代文学を中心に取り上げる。20 世紀初頭、中国からは多くの若者たちが相次いで日本に留学し、学業のかたわら夏目漱石など日本の近代文学者の作品に親しみ、帰国後に文学者となって新文学というジャンルを切り開いた。その代表的人物が魯迅（ロジン）である。言うなれば、20 世紀中国文学の重要な基盤の一つが日本近代文学であり、また日本近代文学者の中にも中国文学者と直接の交流をもち、そこからインスパイアを受けて書かれた作品が多くみられる。それらの様相について、前半は中国、後半は日本の作家や作品を取り上げて、わかりやすく講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（本授業の進め方/東アジアの「近代」と中国と日本の「文学」について）
第 2 回	清朝末期の亡命者と明治期「政治小説」との関係
第 3 回	中国人留学生と明治期「翻訳小説」との関係
第 4 回	魯迅と日本文学①——夏目漱石編
第 5 回	魯迅と日本文学②——芥川龍之介編
第 6 回	魯迅と日本文学③——有島武郎編
第 7 回	周作人と日本文学①——武者小路実篤編
第 8 回	周作人と日本文学②——与謝野晶子編
第 9 回	「創造社」と日本文学①——田山花袋編
第 10 回	「創造社」と日本文学②——佐藤春夫編
第 11 回	「創造社」と日本文学③——谷崎潤一郎編
第 12 回	芥川龍之介と「唐代伝奇」
第 13 回	中島敦と「唐代伝奇」
第 14 回	太宰治「惜別」と魯迅「藤野先生」
第 15 回	村上春樹と中国文学
第 16 回	定期試験

到達目標

受講生は、20 世紀以降の中国と日本の文学の特徴や作家・作品を理解し、その相互影響についての知識をもつとともに説明することができる。

履修上の注意

外国文学の授業であるが外国語の知識の必要はない。

予習・復習

予習については、上記授業計画のトピックを調べておくこと（例：第2回「政治小説」/第4回「魯迅」）。復習については、授業時配布プリントと受講生各自のノートをもとに、重要事項をピックアップしてその内容をまとめておくこと（例：第1回 中国と日本の「文学」の共通点と違いとは何か）。

評価方法

学期末試験 70% 受講態度 30%

テキスト

毎回プリントを配布して授業を進める。